

学校で児童から虐待や性被害の訴えを受けたら・・・

児童から被害の届け出、相談

学校で児童から聞き取り
(詳しい話を聞こうとせず、児童が自発的に話した内容のみ聞き取り、「誰が」、「何を
した」だけで十分です。)

※加害者が保護者である場合は児童相談所へ
加害者が保護者以外の場合は警察へ通報

【警察官や児童相談所の職員が教職員の皆様から聞き取る内容の例】

- ・児童から被害を打ち明けられたときの状況（体裁は問いませんので、児童と学校関係者の言葉のやりとりの詳細について、ありのままに記録願います）
- ・児童から被害を打ち明けられてから警察や児童相談所への連絡に至るまでの流れ
- ・被害児童について、普段の学校での生活状況

【提出いただきたい資料の例】

- ・家庭状況調査票
- ・年間行事予定表
- ・時間割

警察署または児童相談所に通報（情報は共有します。）

児童の安全確保
例：家庭内被害の場合、必要に応じて
児童相談所による一時保護

警察、児童相談所、検察庁が協議し、代表者聴取

代表者聴取するかどうかは、
警察、児童相談所、検察庁の
三者が協議して決めることにな
ります。

代表者聴取により聞き取った内容を基に事件捜査

教職員のみなさまへのお願い

児童にとって、教職員の存在は非常に大きなものです。

そのため何度も同じことを聞かれたり、誘導するような聞き方をすると、被害に遭った記憶は、違う記憶に書き換えられてしまうことがあります。

「どうして?」「なんで?」と聞き返されたり、繰り返し同じことを尋ねられると、児童は「自分が間違っているんじゃないか」、「別の答えを求められているんじゃないか」と思い込み、当初と違う話をする場合があります。

他県では、教職員、警察官、児童相談所職員等何人もの関係者が被害を受けた児童から繰り返し聞き取りをした結果、被害の記憶が書き換えられ、代表者聴取で全く違う内容を話してしまったり、面接官に一言もしゃべらなかつたりしたことがあります。

その結果、被害事実を正しく把握できず、無罪判決となってしまう、児童の権利利益の擁護につながらなかった事例もあります。

児童の話をキャッチし、聞き取りすぎずに次につなげることが、その子を救い出す一歩につながります。

連絡・お問い合わせは お近くの警察署又は少年サポートセンターまで

岩手県警察シンボルマスコット
「びかぼ」

